

## Profile



三船文彰 Bunsho Mifune

1954年台湾台南生まれ。岡山朝日高等学校、国立台湾大学歯学部卒業。岡山大学口腔外科を経て、36年前より岡山市で歯科医院を開業。

14歳の時に父親の抽象画家、劉生容とともに日本に移住。幼少より父からヴァイオリンの手ほどきをうけ、14歳のときにチェロに転向。チェリスト岩崎洸氏の導きで、名教師斎藤秀雄氏の最後の門下生となる。多くの日本を代表する音楽家との交流を始める。大学時代より多くチェロ演奏を行い、音楽プロデューサーとしても、30年前から内外の一流の演奏家を招いての一期一会のコンサートを200回以上企画し、すべて成功に導いた。中でも2003年から伝説のピアノの巨匠ルース・スレンチェンスカをアメリカから招き、78歳の日本初演から93歳のサントリーホール・コンサートまで、30数回の歴史的なコンサートを行い、NHKやOHKがドキュメンタリー番組を放送し、劉生容記念館レーベルの「ルース・スレンチェンスカの芸術」19枚のCDが「レコード芸術」誌で全て特撰に取り上げられるなど、ピアノ演奏史に豊饒なる1ページを付け加えた。

2000年より日本人の名演奏家を台湾に招いて「李登輝ご夫妻に捧げる演奏会」を台北で5回開催。

2011年4月、台湾台南の奇美博物館の銘器2本を貸与され、岡山の4都市で久保陽子氏の独奏による「八田與一記念及び東日本大震災追悼コンサート」を行う。

2011年12月東京の求道会館で（一社）大学女性協会の主催による「東日本大震災慈善チェロリサイタル」を行い、美智子皇后陛下ご臨席の栄誉を賜る。

2012年、久保陽子氏とともに被災地雄勝町などを巡回演奏。台北でも、奇美博物館の銘器を使用し、台湾の東日本大震災への援助に対して「ありがとう！台湾」コンサートを開催。

2013年12月に御所に招かれ美智子皇后陛下とシューベルトのピアノ三重奏曲を演奏。

2014年より名ピアニスト、弘中孝氏と岡山、東京、大阪、台湾でフランク、ショパン、ラフマニノフのチェロ・ソナタを多数演奏。

2017年、岡山ルネスホールにて内外の劉・三船ファミリー20名による「Liu 三船ファミリー Art Ensemble」コンサートを3日間開催。

2018年、サントリーホールでの「ルース・スレンチェンスカ ピアノ・リサイタル」(93歳)を開催し、奇蹟のコンサートとして多くの音楽愛好家の記憶に刻まれた。

2019年9月13日、紀尾井ホールにて劉生容記念館蔵クララ・シューマン所有のピアノと台湾台南市の奇美博物館蔵のヨアヒムのストラディバリを使用し、「クララ・シューマン生誕200年バースデー・コンサート」を開催。

2020年4月、岡山シンフォニーホールと紀尾井ホールで準備したルース・スレンチェンスカ(95歳)の「ベートーヴェン生誕250年記念 ピアノ・リサイタル」はコロナ禍のため中止となる。

2020年12月、紀尾井ホールにて、名ピアニスト弘中孝とショパンとラフマニノフのチェロ・ソナタを演奏

岡山県芸術文化賞、第79回山陽新聞賞文化功労賞受賞。



台湾台南 奇美博物館蔵  
世界最古のチェロ  
1566年製 アンドレア・アマティ



<http://liu-mifune-art.jp>

## 林原美術館コンサート

～三船文彰 チェロ名曲の楽しみ～

ショパン チェロ・ソナタ  
&  
チェロ小品名曲



牡丹孔雀図屏風(右隻) 岸駒 筆

2023 11.11 sat

主催：林原美術館

## Program

フレデリック・ショパン

FREDERIC CHOPIN (1810 ~ 1849)

チェロ・ソナタ ト短調 作品 65

Sonata for Cello and Piano in G minor Op.65

I. Allegro moderato

II. Scherzo. Allegro con brio

III. Largo

IV. Finale. Allegro

休憩

1. カタロニア民謡 鳥の歌
2. チャイコフスキー 感傷的なワルツ
3. チャイコフスキー 懐かしい土地の思い出 Op.42  
「メロディー」
4. チャイコフスキー ノクターン
5. グラズノフ 吟遊詩人の歌
6. メンデルスゾーン 無言歌
7. ドボルジャーク ロマンチックな小品
8. 美智子上皇后陛下作詞 ねむの木の子守歌
9. ラヴェル ハバネラ形式の小品
10. クライスラー 愛の悲しみ
11. エルガー 愛のあいさつ
12. カサド 愛の言葉



左：許文龍（奇美博物館創設者）作  
栄耀の天使（Angel of Glory）

右：ドラクロワ作「ショパンの肖像」  
三船裕二郎（劉文裕）模写  
1973年（17歳の時）

## Profile



荒木 涉 Sho Araki

岡山県立朝日高等学校を経て、武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。

近年、名ヴァイオリニスト久保陽子、コダーイ弦楽四重奏団、スメタナ室内合奏団との室内楽の共演の他、ルーマニア国立放送管弦楽団、ジャパン・チェンバ・フィルハーモニ、ユナイテッドオイロッパなど、著名な楽団と岡山、東京、ブラスチラバ、ウィーンなどでモーツァルト、ショパン、プーランクなどのピアノ協奏曲を数多く協演、好評を博す。

2014年は東京の紀尾井ホールと岡山のシンフォニーホールでブラームスのピアノ協奏曲第一番を演奏するという快挙を達成した。

野上登志子、若尾輝子、平戸信義、石井和彦の諸氏に師事。

近年さらにピアノの巨匠ルース・スレンチェンスカに薫陶を受ける。